

視察園概要① 星 達哉 さん (33歳)



視察場所：南三陸町戸倉字日向 56-1

TEL：0225-69-2543

家族構成：本人、弟、父、母、祖父、祖母

就農時期：平成20年（当時：25歳）

※平成23年3月11日震災発生・営農中断

平成24年営農再開・品目転換

自分で守る・農業で生きる決意

～ここで生きる・仲間と仕事と生きがいと

1. 経営内容

①栽培面積：施設 1.5ha、露地畑 5ha

②作付品目：

小松菜の周年栽培（夏場は、一部シュンギク栽培）

2. 就農までの経緯

南三陸町は元々、水フキや輪菊の栽培が盛んな地域で、私も小さい頃から祖父が一所懸命畑で働くのを見て育ちました。両親はサラリーマンで農外収入を主とする兼業農家でした。

昔から何か物を作る仕事が好きで、農業にも強い関心がありました。石巻専修大学を卒業後、会社員になるも就農を決意し、就農支援資金を利用し、茨城県水戸市にある「日本農業実践学園」に入学。1年間、農業の基礎を学びました。

平成20年25歳の時に、弟とそれまで祖父がやっていた輪菊栽培をメインに就農しました。しかし、就農して3年目。東日本大震災で状況は、一変！

津波でハウス施設も機械も全部流されてしまいました。

その後、1ヶ月間避難所生活の中、地域の仲間と何度も何度も話し合い、真剣に悩んだ結果、「自分たちでやるしかない」「みんなでもう一度、この地域に農業を興す！」と決心。JAやたくさんの方々の支援を受け、再建が始まりました。

「何を作るか？」考えた時、一年間を通じて収穫できる‘小松菜’を選びました。小松菜は、年中パートさんを必要とするくらい仕事があります。仮設住宅で仕事を失った人達と一緒に働き、町を元気にしたいと思ったからです。

3. 労働力

本人、弟、母＋パート雇用 10数名（うち男性 1名）

4. 出荷販売先 ～JA南三陸経由

生協など店舗（50%）：病院・学校給食など業務加工（50%）

パートさんのお仕事

時間	行動内容
7:00	収穫
8:00	
9:00	
10:00	
11:00	↓草取り
12:00	昼食
13:30	調整
14:00	↓
15:00	↓
16:00	

5. 経営特徴

・ミネラルたっぷり、味わい豊かな「小松菜」

石ころだらけの畑を多くのボランティアの皆さんと石拾いからはじめ土づくりに取り組みました。

そこに南三陸の恵みである「牡蠣殻」と稲の「もみ殻」をふんだんに入れて、ミネラルや乳酸菌が豊富な土壌になりました。その結果、旨味、糖度、栄養分が高く、癖もない、味わい豊かな「しゃきっと小松菜」を生産しています。



・ハウスビニールは、UVカット仕様で害虫対策

UVカットだと、昆虫は、平衡感覚を失いハウス内で活動できなくなります。防虫ネットと併用し害虫被害を防いでいます。

・緑溢れる地域を再び

栽培を始めて4年目になり、連作障害もなく土もだんだん慣れてきて、野菜の卸売りをしている企業で、小松菜の成分検査をしたところ多くの項目で平均値を上まわり、お墨付きをいただきました。

田舎の風景と言えば、緑が広がっているのが一般的ですが、ここでは津波を被った土地の農地整備が、現在進行形で行われており、山の赤土のままの地面が多く目立つ状況。一日でも早く、青々とした農作物で地域一帯を埋め尽くしたいと考えています。

栽培サイクル

項目	作業内容
前準備	肥料散布 耕運
播種	播種
管理	灌水 草取り
出荷	収穫 調整

※播種～出荷までの期間

夏場：30日前後

冬場：90日前後

6. 経営を開始しての感想

・南三陸は、平場の土地が少なく、畑の整地に切り土を行っている土地が多く、畑のクセがあるので、栽培管理に苦労した。

・農業は、失敗から学ぶもの。小松菜は、栽培期間が短く年5作が可能で、技術修得が早くできた。

・就農前は、マニュアルどおりできると思っていたが、これが甘かった！

7. 新規参入者希望者へ一言

・「失敗は当たり前、くじけない心が大切！」→次に活かすこと。



・生産物の「欠品」は、申し訳ないこと。
→責任を感じてやるのが信頼確保へ。